

*前号 No.49 (10月30日発行) から今までの間に COP27 があり、それに合わせて IWA-42 (ネットゼロ) が発行されました。またそのあとに、ISO14068 (カーボンニュートラリティ) の DIS 化が決まりました。今回はその報告が中心です。

/// I N D E X //////////////////////////////////////

- ・ ISO 情報-----IWA42 (ネットゼロ) と ISO/DIS14068 (カーボンニュートラリティ)
- ・ エコバランス国際会議の特別セッション「カーボンニュートラリティと削減貢献量」の報告
- ・ LCAF からお知らせ…「LCA 中級研修」を 11 月 10 日 (木)・11 日 (金) に行いました。
「LCA 初級研修」を 12 月 12 日 (月)・13 日 (火) に行います。
- ・ 編集後記-----「削減貢献」から映画のカサブランカ

■■ ISO 情報 : IWA42 (ネットゼロ) と ISO/DIS14068 (カーボンニュートラリティ) ■■

○IWA42 (ネットゼロ)

IWA (International Workshop Agreement) は、国際ワークショップを開催して、大多数の賛成を得た文書として発行される文書です。前回解説したように、10月18日に行われた TC207/SC7 の総会では、今作成中の ISO14068 (カーボンニュートラリティ) などの規格との整合性が問題なので、発行を延期するように ISO 中央事務局に申し入れることが決まったのですが、全く問題にされずに、COP27 が開催中の 11 月 11 日に IWA42 (ネットゼロガイドライン) が発行されました。今思えば、最初から COP27 に合わせて発行する計画だったのだらうと思います。

この IWA42 は、組織が「温室効果ガスの排出をネットゼロにするための指針」を示しています。2030 年までに半減、2050 年にネットゼロとすることを基準として、電力、セメント、鉄鋼などのセクター別 2050 年目標も示しています。排出削減することが第一で、最後に残った「残留排出 (residual emission)」を大気からの除去(removal)でバランスさせることをネットゼロと言っています。最終的には、大気からの CO2 の除去で作成されたカーボンクレジットでオフセットすることを認めています。全体的には SBTi の”PATHWAYS TO NET-ZERO” を強く意識した文書になっていると私は感じています。国際標準規格ではないので shall (要求事項) はなく、should (推奨事項) で書かれています。

特徴的なのは、規制や指針を決定する「ガバナンス組織」の行動について特別に書いていることです。具体的には、政府や地方自治体の行動を要求しているとみることができます。COP27 に合わせて発行されたことが良く理解できると思います。

私が関心を持っている「削減貢献量」については、「組織は、可能であれば、消費者やバリューチェーンの組織のために、ソリューションプロバイダーとして社会における削減貢献につながる行動を可能にすることが望ましい」としています。削減貢献する技術開発の必要性を認めていると言えます。ただ、「削減貢献量はネットゼロ目標にカウントされない方が良く、別々に扱われることが望ましい」と書くのを忘れてはいません。

ISO が発行している国際標準規格としての文書 (ISO,TS,TR) は購入しなければ見ることができないのですが、IWA は国際ワークショップの合意文書なのでインターネット上で誰でも見ることができます<<https://www.iso.org/netzero>>。この簡便さを考えると、ISO よりも影響力が大きいように思います。

○ISO/DIS14068:カーボンニュートラリティ

IWA42 が発行されたあと、10月の末から 11 月 18 日まで 7 回の WG 会合がオンラインで行われ、7 月に発行された CD に各国が付けた 1,350 のコメントの最終調整が行われました。ISO として発行するためには、11 月 22 日までに DIS(Draft for International Standard)として登録しなければならないという場面でした。日本の国内審議委員会としては、CD のコメント処理が十分になされていないこと、各国が十分に合意していないことなどから、ISO として発行されなくても TS (技術仕様書) になれば良いという判断だったのですが、これに賛成したのはドイツだけで、最終日の 11 月 18 日に DIS とすることが決まりました。

これまでの議論では、カーボンニュートラリティは、最終的なカーボンフットプリント (CFP) をカーボンクレジットでオフセットするということになっています。カーボンフットプリント

(CFP) は、排出(emission)から自ら行う除去 (removal) を引いたものなので、結局は、最後に残った残留排出 (residual emissions) を、自らが行う大気からの除去(removal)と除去 (removal) で作成されたカーボンクレジットの購入によるオフセットで釣り合わせることになり、ネットゼロと同じになります。

ネットゼロとの違いは、最終段階に行き着くまでのトランジションでもカーボンクレジットの購入によるオフセットを認めていることです。しかも、大気からの除去ではないカーボンクレジットも使えます。この点では、ネットゼロよりも緩やかであると言えます。

削減貢献量は、本文中には出てきません。序文(Introduction)に「削減貢献量というものがある」と書くことに合意を得るのにとても苦労したのが実態です。

○IWA42 (ネットゼロ) と ISO/DIS14068 (カーボンニュートラリティ) の関係

ISO/DIS14068 (カーボンニュートラリティ) は 2020 年 3 月に始まりました。このときには、誰も IWA42 が出てくるとは思っていませんでした。IWA42 (ネットゼロ) は今年の 6 月に作成が提案され急いで作成されたのです。この両者ともイギリスの提案であることを考えると、イギリスは、ISO14068(カーボンニュートラリティ)の動きが鈍いので、IWA42 の発行を思いついたと考えたくなります。

IWA42 が提案された時から、ISO14068 との関係が問題にされながら、IWA42 が発行されました。ネットゼロもカーボンニュートラリティも大気中の GHG を増加させないことを目的にしています。ISO14068 はまだ発行されていませんが、私が二つを比べた限りでは、上述したようにカーボンクレジットの購入によるオフセットの使い方だけが違うように思います。IWA42 はオフセットについて、「この文書はネットゼロを達成するためにオフセットを使用するための推奨事項を示す。ISO14068 はカーボンニュートラルにおけるオフセットに関する指針を提供する」と書いています。

「ネットゼロ」と「カーボンニュートラリティ」の言葉は違いますが、両者とも 2050 年をターゲットにした姿を書いています。私は、そこに到達するために何をすることが重要だと思います。

■■エコバランスの特別セッション「カーボンニュートラリティと削減貢献量」の報告■■

10 月 31 日から 3 日間エコバランス国際会議が福岡で行われました。対面とオンラインのハイブリッドでしたが、450 人以上の人が福岡の会場での参加でした。そのうち 6 割以上が海外からの参加だと聞きました。LCAF はスポンサーとして「カーボンニュートラリティと削減貢献量」という特別セッションを 11 月 1 日 (火) 午後開催しました。ISO14068 の議長と ISO14064-1 の議長にオンラインで講演してもらいました。最後のパネルでは、日本政策投資銀行の原田文代さんとニッセイアセットマネジメントの井上渉さんに会場で登壇していただきました。お二人とも削減貢献量の算定は重要であると認めていました。今は Scope3 の開示が急がれていますが、IWA42 も認めているように、企業が社会の GHG 排出削減へ貢献することの重要性が理解されるようになってきていると思います。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

- ・「LCA 中級研修」を 2022 年 11 月 10 日 (木) と 11 日 (金) に行いました。50 名の方に受講していただきました。
- ・「LCA 初級研修」を 2022 年 12 月 12 日 (月) と 13 日 (火) の午前に行います。LCA の初歩の確認のためにご利用ください。

■■ 編集後記 ■■

福岡のエコバランス国際会議は、ほんとうにコロナの前と同じでした。20 年来の海外の友達もたくさん来まし、新しい若い友人もできました。削減貢献量のセッションでは、私から引き継いで日本 LCA 学会の「削減貢献量研究会」の座長を務めている東大の醍醐さんが、『英語では "Avoided Emission" ですが、日本語では "Contribution to reduction" と言う』と、"Contribution(貢献)"の重要性を解説しました。私も、この訳語が気に入っていて、削減貢献量は誰の命名か仲間と一緒に調べたのですが、早くから活動を始めていた日本化学工業協会の訳ではないか? という推定で止まっています。

外国語で始まったモノを日本語に訳すのはほんとうにたいへんです。私も最初の ISO14040 が出た時にずいぶん考えたのですが、「インベントリ分析」だけは適訳がどうしても見つからず、カタカナで済ませました。LCA の最初の論文を書いたときに、査読者から「インベントリ分析を日本語にしろ」とコメントされたことを思い出します。辞書では「インベントリー=棚おろし」で

すが、「棚おろし分析」と言う勇氣はありませんでした。まだ ISO14040 が JIS になっていない頃の話です。ISO の翻訳 JIS には日本語訳を定着させる働きもあります。洋学を日本語訳した明治時代の人は偉大だと思います。

私は古文の教科書を苦勞せずに暗記できるほどの日本語オタクで、英語が大嫌いだったので、海外滞在で英語やドイツ語で最初に知った単語がたくさんあります。音楽の世界が顕著なのですが、幸いなことに音楽の世界はカタカナ訳が多いです。「カルメン」、「ラ・ボエーム」、「トスカ」、「リゴレット」など。また「コウモリ (独：フリーダーマウス)」、「魔笛 (独：ザウアーフルーテ)」などの直訳も多いです。レハールによるオペレッタの名作「独：ルストゲビトベ」は英語訳「メリーウイドウ」が定着しています。日本語では「陽気な未亡人」だそうです、あまりいただけません。

映画「カサブランカ」の名セリフは「君の瞳に乾杯」です。原語は「Here's looking at you, kid」だそうです。何度も見っていますが素敵なシーンです。私が今気に入っているのは「インテル入ってる」ですね。「Intel Inside」と前に韻を踏んでいるのを後の韻に変えています。すごいですね。友人に聞いたら、日本語が先だと言う説があるそうです。「諸説あります」ですね。

今年もあと少しです。クリスマスにサンタさんが来てくれるように、仕事に精をだします。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見,ご感想,本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで (読んで) ください)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7

アルテール池袋 608

電子メール : lcaf-contact@lcaf.or.jp

URL:<https://lcaf.or.jp/>